

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ギフトド南二軒屋		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		～ 2026年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用児様の特性や保護者様のニーズを客観的に分析し、それに基づいた適切な児童発達支援を実行できています。	プログラムが固定化しないよう、運動感覚面へのアプローチを土台として5領域のプログラムを実施しています。支援員をローテーションで配置し、多様な活動メニューをチームで考案・実施しています。	PDCAサイクルを全職員に浸透させ、新人・ベテラン問わずより深く意見交換ができる場を設けてさらなる支援充実に繋ぎます。
2	支援開始前の打ち合わせや週1回の会議を欠かさず行い、職員間で支援状況を共通理解した上で、チームとして一貫性のある支援を提供しています。	発達支援室のスペース確保のため、活動に合わせて机やパーテーションを移動させるほか、落ち着ける場所として相談室を開放するなど、環境上の配慮を行っています。	支援終了後の振り返りが翌日に持ち越されないよう、朝礼や昼礼での共有を仕組み化し、即時性の高いチーム連携を維持します。
3	職員の共感的な姿勢や、日々の支援記録・SNS・電話を活用した迅速な情報伝達に努めています。	毎月の会報を配布し、SNS・ホームページでの発信を通じ、活動概要や行事予定、自己評価結果を保護者様へ周知しています。	避難訓練や安全計画について、より多くの保護者様に内容を深く理解いただけるよう、共有方法を工夫し透明性を高めめます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	玄関前の段差や階段に手すりがないなど、身体的な介助を必要とする利用者様や保護者様への負担となっています。	2階に事業所入口があり、一階からの連絡手段（インターホンなど）が現在は設置されていない。	階段への手すり設置など、可能な範囲での環境改善を検討します。介助が必要な方が事前連絡しやすいような仕組みを作っていきます。
2	避難訓練等は実施されていますが、一部の保護者が訓練内容や安全計画についてわからないとの回答があり、周知が不十分と思われる。	避難訓練等を実施する曜日や時間帯によって参加したことがないからわからないという方がいると考えられます。また実施の告知や周知についての取り組みが不十分だと考えられます。	実施曜日や時間の偏りをできる限りなくすよう過去の避難訓練報告等を見返して実施日時の調整をしていきます。また参加される方への事前告知や報告を実施していきます。実施後は施設内掲示や会報でのご報告を継続していきます。
3	保護者様や利用者様へ提案したホームプログラムの実施状況の確認がおろそかになることがあります。	提案後経過を追うための記録シートや、定期的に確認する共有の仕組みがまだ標準化されていないことに要因があると考えます。	進捗確認のための記録シートを作成し、保護者様と職員が伴走して支援できるような仕組みを作れるよう努めます。